

事業分類		<input checked="" type="checkbox"/> ソフト <input type="checkbox"/> ハード <input type="checkbox"/> 必需		公的関与		8		作成日		30年 6月 29日				
事務事業名		育苗研修交流施設経費						シート作成部署						
総合計画上の位置付け	基本施策	5 賑わうまち						課名	産業課		係名	産業振興係		
		5-1 働きがいのあるまちをつくる						シート作成者						
	施策	5-1-1 農業の振興						予算費目	会計		一般			
									款		6			
主要施策	④ 流通体制の充実						項		1					
	⑤ 都市と農村との交流の促進						目		3					
個別計画名														
住民との関わり		施策・事業評価における住民の意見の反映												
事業の対象・目的・内容	対象（誰を、何を）				目的（どういう状態にしたいのか）									
	住民				施設の効率的な運営と野菜・園芸教室等の開催により、高齢者の生きがいづくりや住民の憩いの場・交流の場を提供します。									
事業内容（どのような方法で、何を行うのか）		野菜・園芸教室・・・野菜・花卉等の栽培を通じて、住民の緑化意識の推進を図ります。 朝市、朝市祭・・・ふらわあ〜びれっじ運営協議会との協働により、地元で採れた安全・安心な農産物の直売等を通じて地産地消を推進します。												
事業期間		昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 年度 ~ 平成 年度（ 年間） <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし												
根拠法令・要綱等		東員町育苗研修交流施設の設置及び管理に関する条例												
		平成28年度（決算）			平成29年度（決算）			平成30年度（予算）						
全体事業費（千円）A+B		0			459			3,104						
財源内訳	国庫支出金		0			0			0					
	県支出金		0			0			0					
	地方債		0			0			0					
	その他特定財源		0			385			391					
	一般財源		0			74			139					
直接事業費（千円）A		0			459			530						
人件費（千円）B		0			0			2,574						
内訳	一般職員（人・千円）		0.00 人		0		0.00 人		0		0.39 人		2,574	
	臨時職員（人・千円）		人		0		人		0		人		0	
成果指標	成果指標名				単位		29年度		30年度		31年度			
							目標		実績		（目標）			
	① 野菜・園芸教室参加人数				人		30		29		30			
	② 朝市への入場者数				人		1,500		1,034		1,000			
③														
説明		野菜・園芸教室の募集定員数及び朝市の入場者数を指標としています。												

事業名		育苗研修交流施設経費		シート作成課		産業課		
一次評価者		産業課長		二次評価者		建設部長		
評価項目の説明	チェック項目			一次	二次	一次の評価又は説明		
	必要性	1. 事業開始時の目的を概ね達成するなど実施意義が低下している。 2. 社会情勢の変化など時の経過とともに事業開始時の目的が変化してきている。 3. 利用者、対象者の減少など住民ニーズの低下傾向がみられる。 4. 住民ニーズを上回るサービス提供となっている。 5. 国や他市町と比較するとサービスの対象や水準を見直す余地がある。 6. 国や県のサービスと重複している。 7. 民間のサービスと競合している。 8. 厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない。			■	■	現在の利用状況 花木棟・・・花卉クラブ 展示棟・・・朝市、朝市祭、野菜園芸教室 管理棟・・・ツグマファームとういん 水耕棟・・・同上 以上の施設利用のみとなっています。	
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。 2. 施策への貢献度が著しく高いとはいえない。 3. 施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。 4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。			□	□	非農家・定年退職者等への野菜・園芸栽培技術の習得と、農業者に対する生産意欲の向上を図る場としては有効です。	
	達成度	1. 事業開始時の目標設定に比べて進捗状況が劣っていると思う。 2. 事業開始時の目標に比べて成果があまり上がっていないと思う。 3. 概ね目標を達成していると思う。 4. 十分に目標を達成していると思う。			□	□	設置当初に比べ、現在では限定される事業のみの利用となっています。	
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い（他市町や類似業務を行う民間に比べて）。 2. 現在の事業実施主体の他に効率的に事業を実施できる主体がある。 3. 他の実施主体のノウハウを活用できる。 4. 他の実施主体を活用しても公平性・公正性等が担保され、行政責任が問われない。 5. 事業実施している人員、手段等の見直しによりコスト削減の余地がある。 6. 電子化等の事務改善によりコスト削減の余地がある。 7. 契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。			□	□	農業祭の開催や平成27年度から農福連携事業の拠点(管理棟)として、施設の有効利用を図っています。	
本事務事業の実施適切性の説明								
非農家や定年退職者に対する趣味・生きがいがづくりの場、農業者に対する生産意欲の向上の場として利用しています。また、施設を農業者の活動拠点として有効利用を図るため、効率的な活用方法を検討していますが、決定打が見い出せない状況であります。 また、平成4年に供用開始しました当該施設は、近年、ガラス温室（水耕棟、展示棟、花卉棟）の経年劣化による側面ガラスの破損や天井ガラスの崩落など、施設利用に対し危険性が高まる傾向にありますので、施設利用及び必要性について協議が必要と考えます。								
一次評価	評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価		
		2	3	2	4	(8) B	A	
						(7) D	(5) (6) C	
今後の方針	休・廃止		見直し	継続	拡大			
今後の改革・改善目標	施設を有効に利用することにより、住民の農業に対する理解を深めるとともに、生産意欲の向上を図っていますが、当該施設は供用開始してから30年が経過していることから、近年の台風や積雪等に伴うガラスの飛散による危険回避が不可欠となっています。							
二次評価	評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価		
		2	3	2	4	(8) B	A	
						(7) D	(5) (6) C	
今後の方針	休・廃止		見直し	継続	拡大			
コメント	育苗研修交流施設は、花や野菜を育てる園芸を通じた生きがいがづくりの場としても重要な施設と考えます。今後は、農業関係機関等とも協議しながら、本町の農業振興に寄与する施設としての存続について検討する必要があります。							
二次評価に対する課の考え方								
参画協働の今後の方針		いつから	平成	年度から	4	住民（利用者）も運営等に参画していく		